



265



若竹だより

【巻頭言】

三寒四温

園長 野田大燈

先日、会議のために上京しました。出発前日より急激に冷えてきましたので四国よりは関東の方が更に寒かろう、と普段より厚着をして自宅を出ました。

羽田空港に着くと暖かいのです。空港内を歩いているだけで汗ばんできました。

下着を一枚脱ごうかと思いましたが、会議が 2 日続くためにその資料がトランクの大半を占めていて空間がないのです。

仕方がないので我慢をして歩くと尚更に汗が噴き出し、化学繊維の下着は吸収性がないので汗が流れるのです。

会議が終わってホテルのルームキーをもらって大急ぎで入浴して身体を温め、何とか風邪症状から脱せられました。

つい近年まで「三寒四温」という言葉が機能していたはずです。

冬の寒い日でも「この寒さも 3 日間我慢をすれば暖かい日がやって来る！そして 4 日間暖かい日が続いてまた寒い日が 3 日間来る。そうしながらその向こうに本当の春が待っている」と言って子ども達と寒い冬を乗り切ってきたはずです。

ところがこの寒暖のリズムに狂いが生じたのか日替わりで寒暖が入れ替わることがあるのです。

リズムの変調は寒暖のみではなく自然界にまで影響を与え、潮の満ち引き・地球の運行ま

でも微妙な変化をもたらすと言われていました。身心がとても敏感な人は春先に何ると体調を崩します。

俗に言う「木の芽時」という症状で、それは決して春先だけではなく夏から秋に変わる時節にも影響を受けます。

それ等の人はとてもナイーブで人間らしい人間と言えるかもしれませんが、同時に私たちには「適応力」が必要なのです。

環境にそして社会に適応していく力を養うのも自然界を措いて他にはありません。

先日は地元の新聞社が学園下の「日見ずの瀧」の写真を撮りに来ました。

日見ずの瀧は旧高松で唯一の瀧であり、冬の風物詩として氷結した瀧の写真が毎年新聞の一面を飾ります。

そしてその瀧に新聞記者さんをご案内するのも学園生の任務となっています。

新聞記者さんを瀧にご案内して帰ってきた子ども達の手には、白く光って先端の尖ったツララ（氷柱）が文殊菩薩の利剣のように握られていました。

若竹学園に来れたからこそ、他では体験出来ないようなことに遭遇できるのです。

海拔約 400 ㍎の学園には毎年降雪があり、帰り支度に慌てる職員をしり目に「雪よ降れ降れ！」と園庭を走り廻りますが、近年はめっきり降雪量が減ってきました。

雪の量が少ないときは、職員の車に屋根に積んだ雪を集めて雪合戦をしたりしていました。

三寒四温と言うオマジナイのような言葉も、温暖化の為に姿を変えて行くなら寂しい次第です。

—了—

節分

鬼は外、福は内！今年も節分がやってきました。

まずはお昼ご飯に恵方巻きを頂きました。食堂の位置から今年の恵方・南南西を調べ、今年一年の無病息災を願って、静かに黙々と食べました。

5 時間目の授業が終わって、学園玄関にて豆まきをしました。今年も鬼がやって来て、みんなで鬼退治です。

1 年間、元気よく過ごせますように！



豆まきが始まって鬼が学園内に入ろうとした時みんな一生懸命に楽しく鬼に向かって投げていました。その時は笑いが絶えませんでした。(中 3 男児 A 君)

食育(バレンタインデー)

2 月 14 日(日)にバレンタインデーのチョコレートを作りました。日頃の感謝の気

持ちを込めて作ろうと話しながら作り始めましたが、チョコレートが溶けた甘い香りが広がると「早く食べたいな♪」と自分が食べるのが待ちきれない子もいました。チョコレート

をきれいに溶かすのは難しかったですが、夕食後にみんなでおいしく食べることが出来ました。



お別れ旅行

2 月 18 日、19 日の二日間お別れ旅行に行きました。中三生は学園での旅行は最後となります。



いつも朝は眠たそうに

している園生も当日は朝から元気いっぱいでした。園長先生・学校の先生に見送られながら出発しました。1 日目の行き先は蛸老亭・関西国際空港です。



蛸老亭では明石焼きを体験しました。明石焼きを知らない園生も多く、焼き方の説明を受けている時は皆、興味津々でした。いざ焼き始めると、余裕を見せていた園生も直ぐに固まり始める明石焼きに戸惑いながらも頑張って作りました。自分で作った明石焼きは格段においしく大喜びであつあつの明石焼きを食べました。蛸飯もあり、食事の豪華さに驚いていました。



次に向かった

のは関西国際空港です。わくわく関空見学ツアーで関空の中を案内してもらいました。普段見る事の出来ない場所を見る事ができて園生達は大興奮でした。飛行機の尾翼を見てどこの国の飛行機なのかを当てるクイズではあっという間に国名を覚えパンフレットを見ずに国名を答えられる子もいました。



ホテルの夕食は、子ども達が楽しみにしていたバイキングでした。思い思いに好きなものを食べ大満喫しました。園生の中にはジュースを混ぜて新しい飲み物を作っている子もいました。いよいよ 2 日目はユニバーサルスタジオジャパンに行きます。ホテルの部屋でどのアトラクションに乗るか、お土産は何を買うか考えてなかなか寝られないようでした。

ユニバーサルスタジオジャパン



待ちに待ったユニバーサルスタジオジャパンの時がやってきました。アトラクションが去年と変わっていた物もあり何回か行った事がある園生も楽しんでいました。

2 月 19 日にユニバーサルスタジオジャパンに行ってきました。いろんな乗り物や食べ物などがありました。怖いジェットコースターやそこまで怖くないジェットコースターがありました。若竹学園では年に 1 度の楽しい行事でした。(中 1 男児 B 君)

2 月若竹学級だよ

1 月は「行く」2 月は「逃げる」3 月は「去る」といいますが、気が付くとはや 3 月も終わろうとしています。インフルエンザが高松市内で猛威を振るっていますが、若竹学級・青峰学級の児童生徒は大きく体調を崩すことなく元気いっぱい活動しています。

削って磨いて堆朱作り

青峰学級では、美術の授業で堆朱(ついで)作りを体験しながら、漆工芸について学習しました。「簡単にできそう」と思っていた生徒も、削り始めると予想以上に硬く苦戦しているようでした。しかし、手をかければかけるほど、色の付いた層が表れ、磨くほどに光沢が見られることに、「まるで自分たちと同じだね」と自分自身を投影しているようでした。



進路にかける熱い思い

中学 3 年生は、それぞれ私立高校受験に緊張した面持ちで臨みました。合格発表までの約 1 週間、不安で押しつぶされそうな日々を過ごしていましたが、合格通知を受け取ると安堵の表情を見せていました。そんな先輩の姿を見て、下級生は「来年(再来年)は自分！」と、以前にも増して進路を意識するようになりました。教職員もこれからの子ども達の明るい未来を切に願い、これからも支援していきたいと思ひます。

発掘



園舎の横にロックガーデンがあります。ロックガーデンには叩くと鉄琴の様な音が鳴るサヌカイト (別名:カンカン石) がありますが、サヌキ安山岩に似た「忍石」(しのぶ石) の中から化石を見つけてきました。金づちを使い一生懸命泥だらけになりながら化石を発掘しています。人数が多い時には 4~5 人集まり、まるで調査隊のようでした。

ペーパークラフト



現在学園ではペーパークラフトが流行りつつあります。以前は女子の間でペーパークラフトをしたいという声が多々あったのですが、最近では男子の間でも希望者が多くなっています。細かい作業に悪戦苦闘しながら頑張っ作っています。時にはあまりの難しさに上手いかず泣いてしまう子もいます。難しかった分、できあがった時の感動は大きく大喜びしていました。

2月行事

- 3日 節分
- 6日 図書館
- 10日 環境整備
- 14日 食育
- 18日 お別れ旅行
- 19日 お別れ旅行
- 20日 図書館
- 28日 遍路ウォーク

在籍人数 平成 28 年 2 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	1	5	6
	中学生	6	4	10
	その他	0	0	0
	計	7	9	16
女 子	小学生	3	0	3
	中学生	4	2	6
	その他	0	0	0
	計	7	2	9
合計		15	12	25

編集後記

お別れ旅行は天気に恵まれ、良い思い出を作ることが出来ました。子ども達は、学年の終わりを迎え、新しく出来るが増えています。目標に向かって頑張っている姿に成長を感じています。

児童指導員 青木 亨

第 265 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
 TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
 ホームページ <http://4on.or.jp/>
 Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員
 発行責任者 野田 大燈